

**令和 7 年度**

**事務の管理及び執行の状況についての  
点検及び評価に関する報告書**

**対象：第 3 期 高松市教育振興基本計画（令和 6 年度）**

**令和 7 年 1 1 月  
高松市教育委員会**

# ■ 目 次

◎ はじめに.....	1
1 趣旨 .....	1
2 事務の管理及び執行状況についての点検及び評価の対象 .....	1
3 点検及び評価の方法 .....	1
4 教育に関し学識経験を有する者 .....	1
5 報告 .....	1
◎ 点検評価表 .....	3
Ⅰ 生きる力を育む学校教育の充実	
1 確かな学力と個性を伸ばす教育の推進.....	4
1-1 学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（小学 5 年生） .....	5
1-2 学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（中学 2 年生） .....	5
2-1 授業において、一人一台端末などの ICT 機器週 3 回以上活用している児童生徒の割合（小学 6 年生） .....	6
2-2 授業において、一人一台端末などの ICT 機器週 3 回以上活用している児童生徒の割合（中学 3 年生） .....	6
2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進.....	8
3-1 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（小学 5 年生） .....	9
3-2 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（中学 2 年生） .....	9
4 児童が体育の授業以外で運動する時間（1 日当たり）（小学 5 年生） .....	10
3 ふるさとの未来を支える教育の推進 .....	12
5 投票することに前向きな生徒の割合（高校 2 年生） .....	13
6-1 今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（小学 5 年生） .....	13
6-2 今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（中学 2 年生） .....	14
Ⅱ 安全・安心で魅力ある教育環境の充実	
1 学校教育環境の整備・充実 .....	16
7 学校教育施設の老朽化対策進捗率 .....	17
8 電子黒板の整備率.....	17
2 多様な教育ニーズに対応した教育機能の充実 .....	18
9-1 授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（小学校） ...	19
9-2 授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（中学校） ...	19
10-1 90 日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（小学生） ...	20
10-2 90 日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（中学生） ..	20

3 教員の資質向上と教育指導体制の充実 .....	22
11-1 教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（小学校） .....	23
11-2 教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（中学校） .....	23
12 教職員の年次休暇の平均年間取得日数 .....	24
4 安全で安心な教育環境の充実 .....	26
13-1 実践的な避難訓練を行っている学校の割合（小学校） .....	27
13-2 実践的な避難訓練を行っている学校の割合（中学校） .....	27

### Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育力の向上

1 家庭・地域の教育力の向上 .....	28
14 子ども会リーダー研修会に参加して、リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合 .....	29
15 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合 .....	29
2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進 .....	30
16 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合【再掲】 .....	31
17 地域と学校をつなぐ地域学校協働推進員（コーディネーター）を配置している小学校数 .....	31
3 青少年の健全育成の推進 .....	32
18 市民活動団体と健全育成団体が連携できた地域数（累計） .....	33
19 未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人数 .....	33

### Ⅳ 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり

1 多様な学習機会の充実 .....	34
20 生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数 .....	35
21 生涯学習センターのデジタル化した講座等の開催割合 .....	35
2 生涯学習施設・機能の充実 .....	36
22 市民一人当たりの図書館資料の貸出冊数 .....	37

◎ 項目（指標）一覧 .....	39
------------------	----



## ◎ はじめに

### 1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表すること、また、その点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされています。

そこで、高松市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するため、第3期高松市教育振興基本計画の施策目標の達成状況について点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

### 2 事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の対象

第3期高松市教育振興基本計画

### 3 点検及び評価の方法

#### ① 「指標」の評価について

単年度ごとに設定した目標値に対する実績値の達成度で評価を行います。

評価	評価基準
5	「実績値」が「目標値」以上
4	「実績値」が「目標値」の90%～100%未満
3	「実績値」が「目標値」の75%～90%未満
2	「実績値」が「目標値」の60%～75%未満
1	「実績値」が「目標値」の60%未満

#### ② 「施策の基本方向」の評価について

①で評価した「指標」を「施策の基本方向」ごとに合計し、その得点率で総合評価を行います。

(高松市行政評価基本方針と同様の手法により、総合評価を行っています。)

総合評価	得点率
A	80%～100%
B	60%～80%未満
C	～60%未満

### 4 教育に関し学識経験を有する者

点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する次の方から御意見をいただきました。

(敬称略。五十音順。)

氏 名	所属等
辻 佳宏	高松市PTA連絡協議会 会長
柳澤 良明	香川大学教育学部 教授
山口 明乙香	高松大学発達科学部 教授

### 5 報告

報告書は、高松市教育委員会ホームページにおいて公表します。



## ◎ 点検評価表

## 基本目標 I 生きる力を育む学校教育の充実

【施策の基本方向】	総合 評価
1 確かな学力と個性を伸ばす教育の推進	
<b>【具体的な施策の展開】</b> (1) 確かな学力の育成 (2) 外国語教育の推進 (3) ICTを活用した教育の推進 (4) 高等学校教育の充実 (5) 就学前教育の充実	<b>B</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
1-1 学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（小学5年生）	<b>4</b>
1-2 学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（中学2年生）	<b>5</b>
2-1 授業において、一人一台端末などのICT機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（小学6年生）	<b>3</b>
2-2 授業において、一人一台端末などのICT機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（中学3年生）	<b>3</b>

### 【学識経験者等の意見】

令和5年4月1日から施行されている子ども基本法の意見表明権に基づけば、中学校だけでなく、小学校においても、授業のみならず、児童会や学級活動において、安心して自分の意見を言うことができ、学級や学校という集団において自己が役割を果たしており、貢献しているという民主主義的な経験を数多く持つことが学校教育の重要な使命となる。また、ICTに関しては、単に回数等の量的な目標だけでなく、今後は、どのような使い方をしているかといった質的な面での検討も必要である。使われるべきところで使っていないのか、使う必要がなく使っていないのかについての吟味が必要である。

多様な学びの推進と児童生徒が成長を実感できる教育の実現が、今後、更に重要になる。学びの連続性を確保するためには、ICTの活用拡大と人的・物的資源の柔軟な調整が必要であり、教育環境や教員支援の一層の強化が期待される。

学習状況調査だけではなくどのような点が楽しいのか、更に調査・考察が必要である。同時に明確に「授業が楽しいから学校が楽しい」と思うことができる環境づくり授業づくりは、今後もしっかり取り組んでいきたい。更に言えば自分で考え、自分の言葉で伝え、自分の意思で行動する「主体性」を育み「主体性」を発揮できるような学びの場であれば更に「楽しく」感じるのではないかと考える。

ICT機器を授業の補完のために使用するだけでなく、プログラミング等の専門特化を強め、身の回りのシステム構造を理解し、テクノロジーの進化を受け止め、味方につけ、課題解決に向けた探求心を育んでいきたい。



1-1	指標	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（小学5年生）
-----	----	-----------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に、「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
達成度は95.7%で、おおむね達成することができている。ただ、約4分の1の児童は楽しいと感じられていないことが分かる。学校が楽しいと感じるためには、まず授業が分かる必要がある。令和6年度香川県学習状況調査の児童質問紙で「授業の内容がよく分かるか」という質問に肯定的に答えている児童は約7割であった。		77.4	目標値	79.0	79.0	79.0	79.0	4
	単位	%	実績値	75.6				
			達成度	95.7				

今後の課題と対応

誰一人取り残さず、みんなが分かる授業づくりを各学校で進めていくために、現職教育や専門研修等を充実させたい。本課としては、学校訪問や要請訪問での指導内容を課内で検討したり、他課と連携し、現場の声を研修内容に反映させたりする等、教員の授業力向上に取り組んでいく。

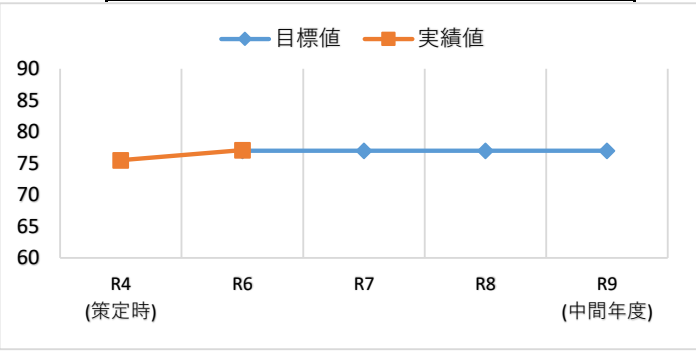
目標値

実績値

種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)
目標値	79.0	79.0	79.0	79.0	79.0
実績値	77.4	75.6	75.6	75.6	75.6

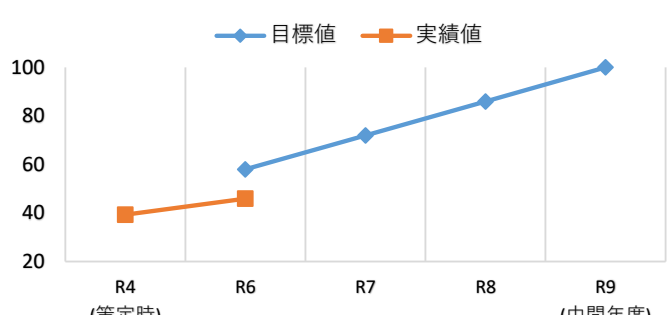
1-2	指標	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（中学2年生）
-----	----	-----------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に、「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																												
令和6年度は、実績値が目標値を上回っていた。令和6年度香川県学習状況調査の生徒質問紙では、「物事を最後までやり遂げてうれしかった」経験がある生徒の割合や、「学級の中で安心して自分の意見を言える」と感じている生徒の割合が高かった。	75.5	目標値	77.0	77.0	77.0	77.0	5																													
	単位	実績値	77.1																																	
		達成度	100.1																																	
今後の課題と対応		 <table border="1"><caption>達成度の推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>種別</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">R4 (策定時)</td><td>目標値</td><td>77.0</td></tr><tr><td>実績値</td><td>75.5</td></tr><tr><td rowspan="2">R6</td><td>目標値</td><td>77.0</td></tr><tr><td>実績値</td><td>77.1</td></tr><tr><td rowspan="2">R7</td><td>目標値</td><td>77.0</td></tr><tr><td>実績値</td><td>77.1</td></tr><tr><td rowspan="2">R8</td><td>目標値</td><td>77.0</td></tr><tr><td>実績値</td><td>77.1</td></tr><tr><td rowspan="2">R9 (中間年度)</td><td>目標値</td><td>77.0</td></tr><tr><td>実績値</td><td>77.1</td></tr></tbody></table> <p>生徒質問紙の結果から、規律ある集団生活の中で自分が何かの役割を担い、集団で目標を達成することが、生徒の学校生活に対する充実感につながっていると考えられる。生徒会活動等で、生徒自ら学校をより良くしようとする参画意識が芽生えるような指導の工夫を更に進めるよう、今後も学校訪問等で各学校に指導していく。</p>							年度	種別	値	R4 (策定時)	目標値	77.0	実績値	75.5	R6	目標値	77.0	実績値	77.1	R7	目標値	77.0	実績値	77.1	R8	目標値	77.0	実績値	77.1	R9 (中間年度)	目標値	77.0	実績値	77.1
年度	種別	値																																		
R4 (策定時)	目標値	77.0																																		
	実績値	75.5																																		
R6	目標値	77.0																																		
	実績値	77.1																																		
R7	目標値	77.0																																		
	実績値	77.1																																		
R8	目標値	77.0																																		
	実績値	77.1																																		
R9 (中間年度)	目標値	77.0																																		
	実績値	77.1																																		

2-1	指標	授業において、一人一台端末などのＩＣＴ機器を週３回以上活用している児童生徒の割合（小学６年生）
-----	----	---

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「５年生までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか」との質問に、「ほぼ毎日」又は「週３回以上」活用していると回答した児童生徒の割合
担当課	ICT教育推進室

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
研修やＩＣＴ支援員の配置、各学校での実践紹介等により、教員のＩＣＴ活用能力の向上に努めたことにより、電子黒板等の大型提示装置の活用率が100%となるとともに、一人一台端末等を活用した授業も年々増加しているが、現状では実績値が目標値を下回る結果となっている。	39.3	目標値	58.0	72.0	86.0	100	3	
	単位	%	実績値	45.9				
			達成度	79.1				
今後の課題と対応								
研修の実施や、ＩＣＴ支援員の配置による支援等を実施することで、ＩＣＴ活用頻度は昨年度に比べ向上したが、依然、教員のＩＣＴ活用指導力の差が課題となっている。今後も、端末持帰り本格運用やＩＣＴ支援員の配置により、一人一台端末の日常化を図り、児童生徒の情報活用能力の育成を進めていきたい。								

2-2	指標	授業において、一人一台端末などのＩＣＴ機器を週３回以上活用している児童生徒の割合（中学３年生）
-----	----	---

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「１、２年生のときに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか」との質問に、「ほぼ毎日」又は「週３回以上」活用していると回答した児童生徒の割合
担当課	ICT教育推進室

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
研修やＩＣＴ支援員の配置、各学校での実践紹介等により、教員のＩＣＴ活用能力の向上に努めたことにより、電子黒板等の大型提示装置の活用率が95.6%となるとともに、一人一台端末等を活用した授業も年々増加しているが、現状では実績値が目標値を下回る結果となっている。	24.3		目標値	43.0	62.0	81.0	100	3
	単位	%	実績値	32.9				
			達成度	76.5				

今後の課題と対応

研修の実施や、ＩＣＴ支援員の配置による支援等を実施することで、ＩＣＴ活用頻度は昨年度に比べ向上したが、依然、教員のＩＣＴ活用指導力の差が課題となっている。今後も、端末持帰り本格運用やＩＣＴ支援員の配置により、一人一台端末の日常化を図り、児童生徒の情報活用能力の育成を進めていきたい。

種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)
目標値		43.0	62.0	81.0	100
実績値		32.9			76.5



## 基本目標 I 生きる力を育む学校教育の充実

【施策の基本方向】 2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	総合 評価
<b>【具体的な施策の展開】</b> (1) 道徳教育の推進 (2) 人権教育の推進 (3) 読書活動の推進 (4) 体力づくりと健康教育の推進 (5) 食育の推進 (6) 豊かな感性と情操の育成	<b>A</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
3-1 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（小学 5 年生）	<b>4</b>
3-2 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（中学 2 年生）	<b>5</b>
4 児童が体育の授業以外で運動する時間（1 日当たり）（小学 5 年生）	<b>4</b>

### 【学識経験者等の意見】

「人の気持ちが分かる」ということも確かに重要ではあるが、勝手に人の気持ちを推し量る、察する人間になりたい、というのであれば、この目標自体の吟味が必要になる。目標の前提として、察する力よりも、「お互いがしっかりと対話し、お互いの考えを理解し合える力」、シンパシーではなく、エンパシーの力を高めることが重要である。また、どのような形であっても、小学生、中学生、高校生の時期の体づくりは、例えば、根気強く探究活動に取り組むなど、すべての日常の活動の基礎になる。ハードな運動でなくても構わない。体を動かす習慣づくりが求められる。

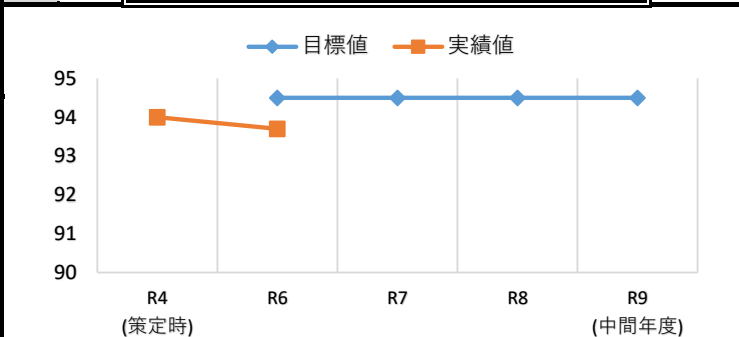
豊かな情操や道徳心、他者への思いやり、社会性を育むことは、児童生徒のみならず地域社会全体のウェルビーイング向上にも寄与する重要な取組である。

「人の気持ちが分かる」ようになるためにも「人の気持ちを考えようとする気持ち」が大切であると思われる。

児童生徒の運動時間については、放課後児童クラブ等と連携し、放課後に運動場で遊ぶ機会を増やす等、増加させるための取組を検討いただきたい。

3-1	指標	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（小学5年生）
-----	----	-----------------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」との質問に、「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課・人権教育課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
達成度は99.2%で、高い水準にある。令和6年度香川県学習状況調査の児童質問紙では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分の役割をきちんと果たしていますか」という項目でも同じように肯定的な回答が9割を超えていることから、周囲の人への気遣いや貢献することの大切さを感じている児童が多いことが分かる。		94.0	目標値	94.5	94.5	94.5	94.5	4
	単位	%	実績値	93.7				
			達成度	99.2				
今後の課題と対応								
同調査で、「人が困っているときには、進んで助けていますか」という項目については、肯定的な回答をする児童が9割を割っていることから、より道徳的実践力を身に付ける取組が必要であると考える。異学年・異校種交流活動や地域でのボランティア活動等で、様々な立場の人と交流する中で、思いを行動に表す力を付ける機会を設ける等、工夫した活動事例を研修等で紹介する。								

3-2	指標	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（中学2年生）
-----	----	-----------------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」との質問に、「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課・人権教育課

達成度の分析／取組内容		策定時	93.6	種別	R6	R7	R8	R9	評価
令和6年度は、実績値が目標値を上回っていた。令和6年度香川県学習状況調査の生徒質問紙では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分の役割をきちんと果たしていますか」という項目でも同じように肯定的な回答が9割を超えていることから、周囲の人への気遣いや貢献することの大切さを感じている生徒が多いことが分かる。	単位	%		目標値	94.0	94.0	94.0	94.0	5
				実績値	94.1				
				達成度	100.1				

今後の課題と対応

同調査で、「人が困っているときには、進んで助けていますか」という項目については、肯定的な回答をする生徒が9割を割っていることから、より道徳的実践力を身に付ける取組が必要であると考える。集団宿泊学習や職場体験学習等の体験活動や地域でのボランティア活動等を通じて、思いを行動に表す力をつける機会を設ける等、工夫した活動事例を研修等で紹介する。

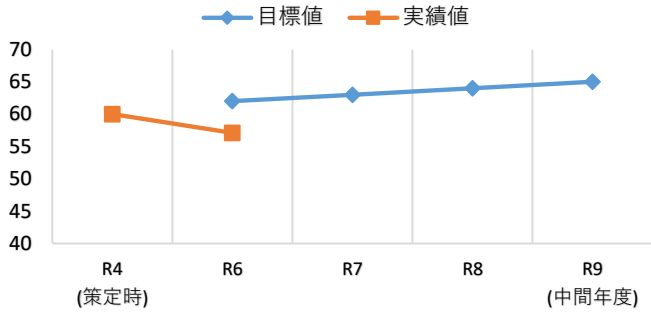
目標値

実績値

種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)
目標値		94.0	94.0	94.0	94.0
実績値	93.6	94.1			

4	指標	児童が体育の授業以外で運動する時間（1日当たり）（小学5年生）
---	----	---------------------------------

指標の説明	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「学校の体育の授業以外で、1日にどのくらいの時間、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをしていますか」との質問に、運動やスポーツをしたと回答した児童の運動時間
担当課	保健体育課

達成度の分析／取組内容		策定時	60	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
授業の中で児童が体育好きになるような取組を実践しているが、放課後の時間のみでは時間、空間、仲間が限られるため、目標値を下回った。		単位	分/日	目標値	62	63	64	65	4																		
				実績値	57.1																						
				達成度	92.1																						
今後の課題と対応		<div><div>◆ 目標値</div><div>■ 実績値</div><table border="1"><thead><tr><th>種別</th><th>R4 (策定時)</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9 (中間年度)</th></tr></thead><tbody><tr><td>目標値</td><td></td><td>62</td><td>63</td><td>64</td><td>65</td></tr><tr><td>実績値</td><td>57.1</td><td>55</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table></div>								種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)	目標値		62	63	64	65	実績値	57.1	55			
種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)																						
目標値		62	63	64	65																						
実績値	57.1	55																									
児童が充実感や達成感を味わうことができる体育授業を目指し、各学校が作成する体力向上プランを推進するとともに、休み時間などの児童が学校にいる時間の活用推進を図り、授業以外の運動時間の確保につなげていく。																											



## 基本目標 I 生きる力を育む学校教育の充実

【施策の基本方向】 3 ふるさとの未来を支える教育の推進	総合 評価
<b>【具体的な施策の展開】</b> (1) キャリア教育の推進 (2) 主権者教育の推進 (3) シビックプライドを育む教育の推進 (4) グローバル人材の育成 (5) 環境教育の推進	<b>A</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
5 投票することに前向きな生徒の割合（高校2年生）	<b>5</b>
6-1 今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（小学5年生）	<b>5</b>
6-2 今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（中学2年生）	<b>4</b>

### 【学識経験者等の意見】

主権者教育の根幹は、小学校からの学級活動やホームルーム活動、児童会活動や生徒会活動における意見表明権の行使や学校生活や地域の諸問題に関する問題解決や合意形成にある。例えば、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間を活用して、探究活動の一環として、地域の諸問題の解決に児童・生徒が貢献できる機会を作ることなどが有効である。

地域市民の一員としての自覚や地域の主権者の一人として、地域への関心を持ち、自らの活動と地域づくりを体感できる取組やその仕組みを充実させることは今後さらに重要になる。

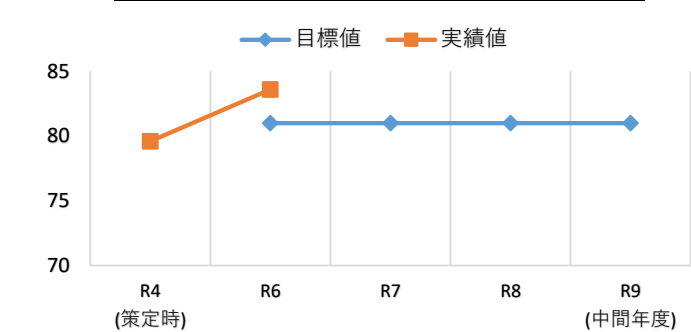
投票することに前向きな生徒を増加させるためには、投票行動につながるための「政党別の理念や政策」の学習も必要であると思われる。

地域についての関心を高めるための取組として、歴史・自然・産業は当然ながら、地域を支える身近な地域の方々を知り、交流を深めることも大切である。



5	指標	投票することに前向きな生徒の割合（高校2年生）
---	----	-------------------------

指標の説明	出前授業における調査において、投票に「必ず行く」又は「行くつもり」と回答した生徒の割合（高校2年生）
担当課	高松第一高等学校

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																					
令和6年度は、実績値が目標値を上回っていた。投票に前向きな生徒の割合はおおむね80%前後で推移していることから、様々な主権者教育に取り組んでいる成果が表れていると考えることができる。		79.6	目標値	81.0	81.0	81.0	81.0	5																					
	単位	%	実績値	83.6																									
			達成度	103.2																									
今後の課題と対応		 <table border="1"><caption>投票に前向きな生徒の割合の推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>種別</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4 (策定時)</td><td>実績値</td><td>79.6</td></tr><tr><td>R6</td><td>目標値</td><td>81.0</td></tr><tr><td>R6</td><td>実績値</td><td>83.6</td></tr><tr><td>R7</td><td>目標値</td><td>81.0</td></tr><tr><td>R8</td><td>目標値</td><td>81.0</td></tr><tr><td>R9</td><td>目標値</td><td>81.0</td></tr></tbody></table> <p>引き続き、県選挙管理委員会の出前講座等を活用するなど様々な主権者教育を実施することにより、生徒に政治への関心だけでなく、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせていきたい。</p>							年度	種別	値	R4 (策定時)	実績値	79.6	R6	目標値	81.0	R6	実績値	83.6	R7	目標値	81.0	R8	目標値	81.0	R9	目標値	81.0
年度	種別	値																											
R4 (策定時)	実績値	79.6																											
R6	目標値	81.0																											
R6	実績値	83.6																											
R7	目標値	81.0																											
R8	目標値	81.0																											
R9	目標値	81.0																											

6-1	指標	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（小学5年生）
-----	----	---------------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「今住んでいる地域（香川県）の歴史や自然、産業について関心がありますか」との質問に、「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
令和6年度は、実績値が目標値を上回っていた。2年間にわたって開催した「高松プライドプロジェクト」を始め、各学校が地域性を生かしたシビックプライドの醸成に取り組んでいる成果が表れていると考えることができる。		65.5	目標値	67.0	67.0	67.0	67.0	5
	単位	%	実績値	68.5				
			達成度	102.2				

今後の課題と対応	
約3割の児童が、自分の住む地域に関心が低いことが課題である。総合的な学習の時間等のカリキュラムを工夫することで、まずは、児童が自分の住む地域のことを知り、自分の住む地域を好きになる取組が行われるよう、学校訪問等で助言を行う。	

目標値 実績値

年度	目標値	実績値
R4 (策定時)	67.0	65.5
R6	67.0	68.5
R7	67.0	
R8	67.0	
R9 (中間年度)	67.0	

6-2	指標	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（中学2年生）
-----	----	---------------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「今住んでいる地域（香川県）の歴史や自然、産業について関心がありますか」との質問に、「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
達成度は93.5%であった。祭り等の地域行事に参加して、企画や運営に携わること等があれば、より自分の住む地域の良さ、独自の地域性等に目を向ける機会につながると考えられる。また、授業で地域に出ていく機会も小学校の時に比べて少なくなることも影響していると考えられる。		42.0	目標値	43.0	43.0	43.0	43.0	4
	単位	%	実績値	40.2				
			達成度	93.5				

◆ 目標値

■ 実績値

年度	目標値	実績値
R4 (策定時)		42.0
R6	43.0	40.2
R7	43.0	
R8	43.0	
R9 (中間年度)	43.0	

今後の課題と対応	
中学生の発達段階では、地域社会に参画していく力が求められているが、その機会を確保しにくいという課題がある。総合的な学習の時間や生徒会活動等を通して、地域の持続的な発展に貢献したいという気持ちを育てることや、実際に貢献する場を設定することができるよう、研修等で各学校に事例の紹介を行う。	



## 基本目標 II 安全・安心で魅力ある教育環境の充実

【施策の基本方向】 1 学校教育環境の整備・充実	総合 評価
【具体的な施策の展開】 (1) 学校教育施設の整備・充実 (2) ICT環境の整備・充実	<b>A</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
7 学校教育施設の老朽化対策進捗率	<b>5</b>
8 電子黒板の整備率	<b>5</b>

### 【学識経験者等の意見】

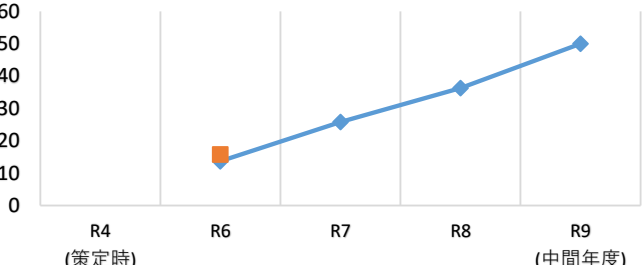
学校教育施設の老朽化対策は、予算を獲得し、早急に取り組む必要がある。電子黒板はすでに使用を奨励する段階を過ぎつつあり、今後、どのように活用するべきかを考える段階に入っていくため、その準備も必要である。実体験やリアリティのある経験が重要な意味を持つ小学生、中学生にとっては、電子黒板やタブレットへの過度の依存についても配慮が必要である。

安心かつ安全な学校環境の整備及び充実、学びの質の向上に資する基盤整備であり、老朽化対策やICT機器の整備などは重要な課題である。今後も年度目標の達成に向けた着実な取組が求められる。

子どもたちの安全安心を守ることは当然ながら、災害時に地域の避難所になることから老朽化対策は早急に進めていただきたい。

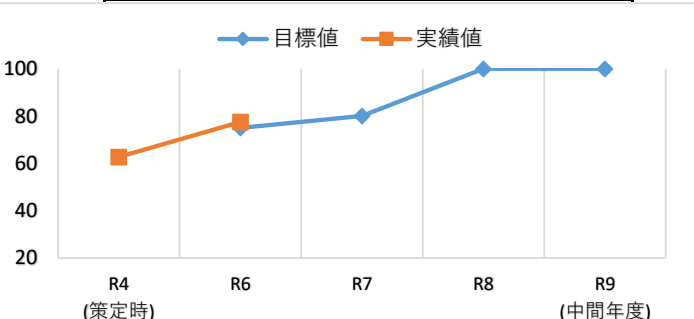
7	指標	学校教育施設の老朽化対策進捗率
---	----	-----------------

指標の説明	本計画期間（令和6～13年度）中における学校施設長寿命化計画及び学校給食調理場整備計画に登載された事業の着手件数に係る進捗率
担当課	学校施設整備室・保健体育課

達成度の分析／取組内容	策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価															
令和6年度は15.8%であり、実績値が目標値を上回っていた。計画的に事業を進められたことに加え、老朽化の著しい施設については、前倒しで事業に着手することができた。	単位	目標値	13.7	25.8	36.3	50.0	5															
		実績値	15.8																			
		達成度	115.3																			
今後の課題と対応	<div><div><div>◆ 目標値</div><div>■ 実績値</div></div><table border="1"><thead><tr><th>種別</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th></tr></thead><tbody><tr><td>目標値</td><td>13.7</td><td>25.8</td><td>36.3</td><td>50.0</td></tr><tr><td>実績値</td><td>15.8</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table></div>							種別	R6	R7	R8	R9	目標値	13.7	25.8	36.3	50.0	実績値	15.8			
種別	R6	R7	R8	R9																		
目標値	13.7	25.8	36.3	50.0																		
実績値	15.8																					
今後も引き続き、長寿命化計画に基づき事業を進めていく必要があるが、令和9年度の第2次計画の策定に合わせて、事業の見直しを適切に行っていく必要がある。																						

8	指標	電子黒板の整備率
---	----	----------

指標の説明	小・中学校における電子黒板を整備した普通教室（特別支援学級含む）及び特別教室（各校6室）の割合
担当課	ICT教育推進室

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
電子黒板については、令和６年度に小学校の特別教室への導入が完了し、令和７年度に中学校の特別教室、令和８年度に小・中学校の特別支援学級への導入を予定しており、計画的な整備が進められている。	62.7	目標値	75.0	80.0	100	100	5																			
	単位 %	実績値	77.5																							
		達成度	103.3																							
今後の課題と対応		 <table><thead><tr><th>種別</th><th>R4</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th></tr></thead><tbody><tr><td>目標値</td><td></td><td>75.0</td><td>80.0</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>実績値</td><td>62.7</td><td>77.5</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>							種別	R4	R6	R7	R8	R9	目標値		75.0	80.0	100	100	実績値	62.7	77.5			
種別	R4	R6	R7	R8	R9																					
目標値		75.0	80.0	100	100																					
実績値	62.7	77.5																								
今後の課題と対応		電子黒板の整備を計画的に進め、研修の実施やICT支援員の配置による支援等を実施したことで、電子黒板等の大型提示装置の活用率は、小学校で100%、中学校で95.6%となっている。今後は更に教員のICT活用指導能力を向上させ、教師主導型から個別最適な学びや協働的な学びができる授業スタイルへの転換を目指していきたい。																								

## 基本目標 II 安全・安心で魅力ある教育環境の充実

【施策の基本方向】 2 多様な教育ニーズに対応した教育機能の充実	総合 評価
<b>【具体的な施策の展開】</b> (1) 特別支援教育の推進 (2) いじめや暴力の未然防止 (3) 不登校児童生徒への支援 (4) 小・中学校等の連携・接続の推進 (5) 就学支援の推進	<b>A</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
9-1 授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（小学校）	<b>5</b>
9-2 授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（中学校）	<b>5</b>
10-1 90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（小学生）	<b>4</b>
10-2 90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（中学生）	<b>3</b>

### 【学識経験者等の意見】

多様なニーズをもつ児童生徒は増加傾向にあり、早期の対応や関係機関との連携が支援の質を左右する。現場が柔軟かつ即時的に対応できる仕組みやネットワークの形成が今後さらに重要になる。

社会全体の雰囲気は「今の時代、無理して学校に行かなくても良い、学ぶ場所はどこでも良い」といったスタンスであると思うが、学校をあきらめてほしくない。学校を安全安心な場所、楽しい学びの場にするために、専門性を高め、多様な学び、個別最適な学びを提供していただきたい。

不登校児童生徒への対応については、多様かつ複雑なそれぞれの一步を受け止め、背中を押せるように、大変な労力ではあるが、不登校の実情を細分化し、今を見る必要がある。また、教育政策であり福祉政策でもあるように思われるので、福祉との連携も必要である。

個別の配慮や不登校がいずれも増加傾向にある中で、今後も引き続き、増加していくことが想定される。教員研修等を通じた、教職員の子ども観、学校観、教育観などの「観」の転換が求められる。同時に、引き続き、十分な対応が実施できるよう、特別支援学校との連携や専門機関との連携を密にするための人的整備が不可欠である。

9-1	指標	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（小学校）
-----	----	--

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」との質問に、「よく行った」又は「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合
担当課	総合教育センター

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
令和6年度は目標を達成することができた。校長研修会や経年研修で、特別支援教育に関する専門性の向上を図ったことや、教育長が特別支援教育の推進について校長面談で伝えたことが目標達成につながっている。	95.7		目標値	100	100	100	100	5
	単位	%	実績値	100				
			達成度	100.0				

今後の課題と対応	
特別な教育的支援が必要な児童は年々増加しており、今後も各研修会等で特別支援教育に関する専門性の向上を図るとともに、通級指導教室など多様な学びの場を整備していくことで、個に応じた支援の充実を図っていく。	

目標値 実績値

年度	目標値	実績値
R4 (策定時)	100	95.7
R6	100	100
R7	100	100
R8	100	100
R9 (中間年度)	100	100

9-2	指標	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（中学校）
-----	----	--

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」との質問に、「よく行った」又は「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合
担当課	総合教育センター

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
令和6年度は目標を達成することができた。校長研修会や経年研修で、特別支援教育に関する専門性の向上を図ったり、教育長が特別支援教育の推進を図ることを校長面談で伝えたりしたことが目標達成につながっている。	95.6	目標値	100	100	100	100	5	
	単位 %	実績値	100					
		達成度	100.0					

今後の課題と対応	
特別な教育的支援が必要な生徒は年々増加しており、今後も各研修会等で特別支援教育に関する専門性の向上を図るとともに、通級指導教室など多様な学びの場を整備していくことで、個に応じた支援の充実を図っていく。	

● 目標値

■ 実績値

年度	目標値	実績値
R4 (策定時)	100	95.6
R6	100	100
R7	100	100
R8	100	100
R9 (中間年度)	100	100

10-1	指標	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（小学生）
------	----	--

指標の説明	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、学校内外の専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童の割合
担当課	総合教育センター

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
令和6年度は目標を達成することはできなかった。長期化している児童生徒は、家から出ることや、会ったことのない関係機関等の職員につなげることが難しいためであるとする。		75.9	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	4																		
	単位	%	実績値	73.0																						
			達成度	91.3																						
今後の課題と対応		<div><div><div></div><div>目標値</div></div><div><div></div><div>実績値</div></div></div> <table><thead><tr><th>種別</th><th>R4 (策定時)</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9 (中間年度)</th></tr></thead><tbody><tr><td>目標値</td><td>80.0</td><td>80.0</td><td>80.0</td><td>80.0</td><td>80.0</td></tr><tr><td>実績値</td><td>75.9</td><td>73.0</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <p>関係機関にはつながっていないものの、75%の児童は学校の教職員とはつながっている。関係機関につなぐためには、職員との人間関係が必要なため、在籍校のSCやSSWとつながることが望ましいが、多くの学校で勤務時間の上限に達しており、新規につながることが難しいことが要因として考えられる。SCやSSWの効果的な活用について、研修会等で呼びかけていきたい。</p>							種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	実績値	75.9	73.0			
種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)																					
目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0																					
実績値	75.9	73.0																								

10-2	指標	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（中学生）
------	----	--

指標の説明	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、学校内外の専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている生徒の割合
担当課	総合教育センター

達成度の分析／取組内容	策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
令和6年度は目標を達成することはできなかった。長期化している児童生徒は、家から出ることや、会ったことのない関係機関等の職員につなげることが難しいためであるとする。	69.4	目標値	75.0	75.0	75.0	75.0	3
	単位	実績値	64.1				
		達成度	85.5				

今後の課題と対応
関係機関にはつながっていないものの、99%の生徒は学校の教職員とはつながっている。関係機関につなぐためには、職員との人間関係が必要なため、在籍校のSCやSSWとつながることが望ましいが、多くの学校で勤務時間の上限に達しており、新規につながることが難しいことが要因として考えられる。SCやSSWの効果的な活用について、研修会等で呼びかけていきたい。

◆ 目標値    ■ 実績値

種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)
目標値	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
実績値	69.4	64.1			





## 基本目標 II 安全・安心で魅力ある教育環境の充実

【施策の基本方向】 3 教員の資質向上と教育指導体制の充実	総合 評価
<b>【具体的な施策の展開】</b> (1) 教員の資質・能力の向上 (2) 学校における働き方改革の推進	<b>A</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
11-1 教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（小学校）	<b>5</b>
11-2 教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（中学校）	<b>3</b>
12 教職員の年次休暇の平均年間取得日数	<b>5</b>

### 【学識経験者等の意見】

実績値には教員の業務負担や労務管理上の課題の影響も考えられる。教員が自らの専門性を高める楽しさを感じ、学びを日々の実践に生かせるような仕組みづくりが、生徒と教員双方のウェルビーイング向上に寄与する。

研修内容は、一方通行の講義ではなく、主体的で個別最適な学びの実現を目指し、対話と実践を中心に、より現場に近くリアルで伴走的な研修が望ましい。

教師の新たな学びの姿や研修観の転換が進められる中、教職員は自らの研修をカスタマイズすることが可能となっている。その根幹は県の教員育成指標に基づく、自己の現在の資質力量の正確な分析である。例えば、高松市でも使用できるようになっている、香川大学教職大学院が開発した 1 on 1 対話アプリなどを数多くの校長先生が活用することで、教職員の資質力量の正確な分析を進めてほしい。

11-1	指標	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（小学校）
------	----	---

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研修会等に定期的・継続的に参加している（オンラインでの参加を含む）」との質問に、「よくしている」又は「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合
担当課	総合教育センター

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
任意団体の研修や、市や県の教育委員会主催の研修及びPlant上のオンデマンド研修への参加が進んでいると思われる。		89.2	目標値	92.0	92.0	92.0	92.0	5																		
	単位	%	実績値	100																						
			達成度	108.7																						
今後の課題と対応		<div><div><div></div><div>目標値</div></div><div><div></div><div>実績値</div></div></div> <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4 (策定時)</td><td>92.0</td><td>89.2</td></tr><tr><td>R6</td><td>92.0</td><td>100</td></tr><tr><td>R7</td><td>92.0</td><td>100</td></tr><tr><td>R8</td><td>92.0</td><td>100</td></tr><tr><td>R9 (中間年度)</td><td>92.0</td><td>100</td></tr></tbody></table>							年度	目標値	実績値	R4 (策定時)	92.0	89.2	R6	92.0	100	R7	92.0	100	R8	92.0	100	R9 (中間年度)	92.0	100
年度	目標値	実績値																								
R4 (策定時)	92.0	89.2																								
R6	92.0	100																								
R7	92.0	100																								
R8	92.0	100																								
R9 (中間年度)	92.0	100																								
今後も、Plant上に掲載されている研修を、個々の教職員が受講しやすい体制づくりを啓発していきたい。																										

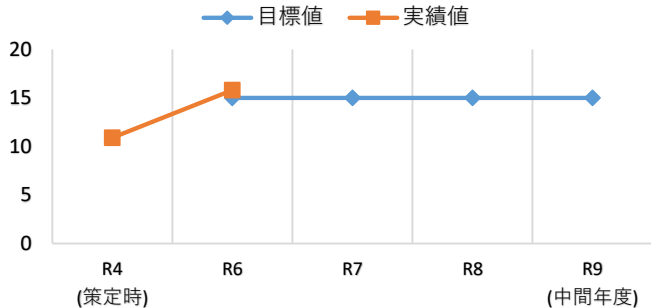
11-2	指標	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（中学校）
------	----	---

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研修会等に定期的・継続的に参加している（オンラインでの参加を含む）」との質問に、「よくしている」又は「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合
担当課	総合教育センター

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
基本研修が終了後は、自らが受講を希望しない限り、研修を受ける機会が少ない制度設計となっている。		87.0	目標値	89.0	89.0	89.0	89.0	3																		
	単位	%	実績値	78.3																						
			達成度	88.0																						
今後の課題と対応		<div><p>目標値 実績値</p><table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4 (策定時)</td><td>89.0</td><td>87.0</td></tr><tr><td>R6</td><td>89.0</td><td>78.3</td></tr><tr><td>R7</td><td>89.0</td><td></td></tr><tr><td>R8</td><td>89.0</td><td></td></tr><tr><td>R9 (中間年度)</td><td>89.0</td><td></td></tr></tbody></table></div> <p>教職員との対話に基づく受講奨励を、管理職がより意識的に行っていくよう、これまで以上に周知に取り組みたい。</p>							年度	目標値	実績値	R4 (策定時)	89.0	87.0	R6	89.0	78.3	R7	89.0		R8	89.0		R9 (中間年度)	89.0	
年度	目標値	実績値																								
R4 (策定時)	89.0	87.0																								
R6	89.0	78.3																								
R7	89.0																									
R8	89.0																									
R9 (中間年度)	89.0																									

12	指標	教職員の年次休暇の平均年間取得日数
----	----	-------------------

指標の説明	小・中学校における教職員の年次休暇の平均年間取得日数
担当課	学校教育課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
指標としている教職員の年次休暇の平均年間取得日数は目標を達成することができた。長期休業期間中の年休等の休日を確保できる環境づくりは進んでいると思われる。	単位	日	目標値	15.0	15.0	15.0	15.0	5																		
			実績値	15.8																						
			達成度	105.3																						
今後の課題と対応		<div><div><div></div><div>目標値</div></div><div><div></div><div>実績値</div></div></div>  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4 (策定時)</td><td></td><td>11.0</td></tr><tr><td>R6</td><td>15.0</td><td>15.8</td></tr><tr><td>R7</td><td>15.0</td><td></td></tr><tr><td>R8</td><td>15.0</td><td></td></tr><tr><td>R9 (中間年度)</td><td>15.0</td><td></td></tr></tbody></table> <p>本市の指針で定めた、時間外在校等時間を月45時間以内とする目標は達成できておらず、引き続き、働き方改革の実現に向けて取り組んでいきたい。</p>							年度	目標値	実績値	R4 (策定時)		11.0	R6	15.0	15.8	R7	15.0		R8	15.0		R9 (中間年度)	15.0	
年度	目標値	実績値																								
R4 (策定時)		11.0																								
R6	15.0	15.8																								
R7	15.0																									
R8	15.0																									
R9 (中間年度)	15.0																									



## 基本目標 II 安全・安心で魅力ある教育環境の充実

【施策の基本方向】 4 安全で安心な教育環境の充実	総合 評価
<b>【具体的な施策の展開】</b> (1) 子どもの安全対策の推進 (2) 防災教育の推進	<b>A</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
13-1 実践的な避難訓練を行っている学校の割合（小学校）	<b>5</b>
13-2 実践的な避難訓練を行っている学校の割合（中学校）	<b>5</b>

### 【学識経験者等の意見】

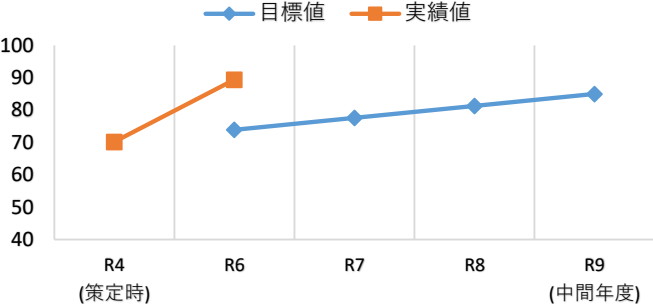
防災教育や実践的な防災行動につながる取組は必須であり、いざという場面の命を守る重要な取組である。今後は避難後の安心や安全の確保を視野にいて、地域の避難所等との運営との連携や合同訓練など、地域全体を巻き込む実践的な災害時の安全安心の確保につながる取組の強化が期待される。

実践的な避難訓練については、引き続き、子どもや教職員の皆様が、冷静かつ主体的に行動できる訓練を続けていただきたい。また地域の防災訓練等にも積極的参加を促していただきたい。

現在、香川大学教職大学院では、高松市の養護教諭が、緊急時に自分一人でどのような対応をすることが必要かをシミュレーションする研修（ソロ研修）、役割を決めずに数人のチームで緊急時の対応訓練をする研修（チーム研修）を開発しつつある。令和8年3月には研究結果がまとまるので、こうした研究成果をいかした、短時間で効率的に実施することができ、かつ高い効果が期待される研修に取り組むことが有効である。

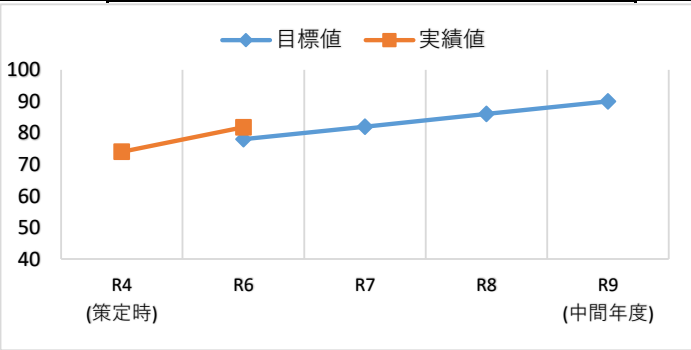
13-1	指標	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（小学校）
------	----	--------------------------

指標の説明	地震に関する避難訓練の調査において、子どもや教職員が主体的に行動できる場面を想定した、訓練（※）を実施した学校の割合 ※避難ルートに障害物を設置して通行できない場面を設置したり、日時を告げずに訓練を実施するもの
担当課	保健体育課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
管理職を対象に、避難所運営や避難訓練等の防災に関する研修会を実施するとともに、避難訓練の際に、指導主事が指導助言を行うことで、南海トラフ巨大地震等の大規模災害に対する危機意識が高まり、より実効性のある避難訓練等の実施につながり、実績値が目標値を上回った。	70.2	目標値	73.9	77.6	81.3	85.0	5																			
	単位	実績値	89.4																							
		達成度	121.0																							
今後の課題と対応		 <p>目標値 実績値</p> <table border="1"><thead><tr><th>種別</th><th>R4 (策定時)</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9 (中間年度)</th></tr></thead><tbody><tr><td>目標値</td><td></td><td>73.9</td><td>77.6</td><td>81.3</td><td>85.0</td></tr><tr><td>実績値</td><td>70.2</td><td>89.4</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>							種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)	目標値		73.9	77.6	81.3	85.0	実績値	70.2	89.4			
種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)																					
目標値		73.9	77.6	81.3	85.0																					
実績値	70.2	89.4																								
児童に防災についての正しい知識や的確に判断する力、適切に行動できる力を身につけさせることができるよう、指導や支援を行い、より実効性のある避難訓練の充実を図る。																										

13-2	指標	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（中学校）
------	----	--------------------------

指標の説明	地震に関する避難訓練の調査において、子どもや教職員が主体的に行動できる場面を想定した、訓練（※）を実施した学校の割合 ※避難ルートに障害物を設置して通行できない場面を設置したり、日時を告げずに訓練を実施するもの
担当課	保健体育課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
管理職を対象に、避難所運営や避難訓練等の防災に関する研修会を実施するとともに、避難訓練の際に、指導主事が指導助言を行うことで、南海トラフ巨大地震等の大規模災害に対する危機意識が高まり、より実効性のある避難訓練等の実施につながり、実績値が目標値を上回った。	74.0	目標値	78.0	82.0	86.0	90.0	5																			
	単位	実績値	81.8																							
		達成度	104.9																							
今後の課題と対応		 <p>目標値 実績値</p> <table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4 (策定時)</td><td></td><td>74.0</td></tr><tr><td>R6</td><td>78.0</td><td>81.8</td></tr><tr><td>R7</td><td>82.0</td><td></td></tr><tr><td>R8</td><td>86.0</td><td></td></tr><tr><td>R9 (中間年度)</td><td>90.0</td><td></td></tr></tbody></table>							年度	目標値	実績値	R4 (策定時)		74.0	R6	78.0	81.8	R7	82.0		R8	86.0		R9 (中間年度)	90.0	
年度	目標値	実績値																								
R4 (策定時)		74.0																								
R6	78.0	81.8																								
R7	82.0																									
R8	86.0																									
R9 (中間年度)	90.0																									
生徒に防災についての正しい知識や的確に判断する力、適切に行動できる力を身につけさせることができるよう、指導や支援を行い、より実効性のある避難訓練の充実を図る。																										

### 基本目標 Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育力の向上

【施策の基本方向】		総合 評価
1 家庭・地域の教育力の向上		
【具体的な施策の展開】 (1) 家庭の教育力の向上 (2) 地域の教育力の向上		<b>B</b>

【施策の基本方向の指標】		評価
14	子ども会リーダー研修会に参加して、リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合	<b>4</b>
15	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合	<b>2</b>

#### 【学識経験者等の意見】

地域に開かれたコミュニティスクールとしての取組は、非常に重要であり、地域の主権者としての意識をもつ児童生徒の育成においても関連の高い取組である。今後の更なる柔軟かつ新たな取組が期待される。

学校は働き方をめぐる過渡期にあり、また、地域は高齢化が進行し、PTAは任意加入となり、個人の意思や環境を配慮したやり方に変わった。このような中、学校・家庭・地域が力をあわせ協働的に学校をサポートし、地域の教育力や安心安全を高めていく必要がある。しかしながら、一部の現場では協働とは逆に分断や拒絶が生まれている場面も見受けられる。一方で、学校・家庭・地域の三位が一体となり、活力があり前向きな活動ができている校区もあるので、その要因を調査・研究し、情報共有すべきである。そのためにも、キーパーソンであるコーディネーターの声を早急に拾い上げることが必要である。

児童会や生徒会と連携して、より多くの児童生徒がリーダーとしての経験を積むことが必要である。また、コミュニティスクールの活性化のためには、基本的なコミュニティスクールの機能に加えて、子どもたちのためにどのような活動をしたらよいかを具体的に考え実行することが不可欠である。小さな活動からで構わないので、まずは子どもたちが民主主義的な経験を積むことができる活動に取り組むことから始めることが必要である。



14	指標	子ども会リーダー研修会に参加して、リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合
----	----	--

指標の説明	子ども会リーダー研修会における調査で、リーダーとしての自覚が「とても高まった」又は「少し高まった」と回答した小学生の割合
担当課	生涯学習課

達成度の分析／取組内容	策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価															
目標値には届かなかったが、子どもたちの意識が高まり、その健全育成に資することで概ね目標を達成することができた。	単位	目標値	100	100	100	100	4															
		実績値	96.2																			
		達成度	96.2																			
今後の課題と対応	<div><div><div></div><div>目標値</div></div><div><div></div><div>実績値</div></div></div> <table><thead><tr><th>種別</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th></tr></thead><tbody><tr><td>目標値</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>実績値</td><td>96.2</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <p>少子化や保護者の社会観の変化等に伴う加入率の低下により、参加者数は縮小傾向にあるが、活動の意義は大きいと考えられることから、引き続き、魅力的な事業を協力して行い、子どもたちが参加したいと思えるよう実施する必要がある。</p>							種別	R6	R7	R8	R9	目標値	100	100	100	100	実績値	96.2			
種別	R6	R7	R8	R9																		
目標値	100	100	100	100																		
実績値	96.2																					

15	指標	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合
----	----	---

指標の説明	香川県学習状況調査において、「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に、「よく行った」と回答した小学校の割合
担当課	学校教育課・生涯学習課

達成度の分析／取組内容	策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
小学校全校への訪問を通して個々の課題に応じた解決策の提案を行うほか、地域住民、学校関係者等を対象にした研修会を開催し、積極的に普及促進を図ったものの、目標を達成することができなかった。	42.6	目標値	46.8	51.1	55.3	59.6	2
	単位 %	実績値	31.9				
		達成度	68.2				

今後の課題と対応

今後も、学校への訪問や学校運営協議会等への参加を行いながら、個別の課題解決支援や相談対応を継続するほか、研修会において内容の充実を図り、地域学校協働活動に対する理解を促進するとともに、モデル校による実践発表やグループワークなどを行って、より多くの学校での活動につなげていく。

目標値 実績値

種別	R4 (策定時)	R6	R7	R8	R9 (中間年度)
目標値	42.6	46.8	51.1	55.3	59.6
実績値		31.9			

### 基本目標 Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育力の向上

【施策の基本方向】 2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進	総合 評価
<b>【具体的な施策の展開】</b> (1) 地域とともにある学校づくりの推進 (2) 学校を核とした地域づくりの推進	<b>B</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
16 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合【再掲】	<b>2</b>
17 地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を配置している小学校数	<b>5</b>

#### 【学識経験者等の意見】

学校は教職員の働き方をめぐる過渡期にあり、他団体と協働して活動する余裕がなく、負担の増加につながると捉える学校や、意義を感じないと考える学校もあるかもしれない。コーディネータのコーディネート力に期待したい。

コミュニティスクールの課題の一つは、小学校での活動に比べて、中学校での活動が地域との関係が間接的になるために低調になることである。小学校だけでなく、中学校での活動の活性化が求められる。その核となるのは、中学生の地域づくりへの参加である。また、地域学校協働活動では、コーディネーターの存在がきわめて重要である。すでに活躍しているコーディネーターの活動経験をいかしながら、コーディネーターを増やしていくことが重要である。

地域に開かれたコミュニティスクールの構築には、地域の推進人材や地域の実情に応じた柔軟な変更や調整が必要である。様々な取組の事例を相互に把握できる情報の共有やノウハウの共有が今後重要になる。

16	指標	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合【再掲】
----	----	---

指標の説明	香川県学習状況調査において、「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に、「よく行った」と回答した小学校の割合
担当課	学校教育課・生涯学習課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
小学校全校への訪問を通して個々の課題に応じた解決策の提案を行うほか、地域住民、学校関係者等を対象にした研修会を開催し、積極的に普及促進を図ったものの、目標を達成することができなかった。	42.6	目標値	46.8	51.1	55.3	59.6	2	
	単位	実績値	31.9					
		達成度	68.2					

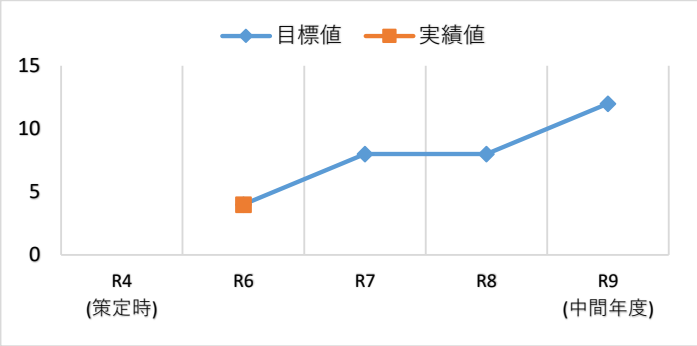
● 目標値    ■ 実績値

年度	目標値	実績値
R4 (策定時)	42.6	
R6	46.8	31.9
R7	51.1	
R8	55.3	
R9 (中間年度)	59.6	

今後の課題と対応	
今後も、学校への訪問や学校運営協議会等への参加を行いながら、個別の課題解決支援や相談対応を継続するほか、研修会において内容の充実を図り、地域学校協働活動に対する理解を促進するとともに、モデル校による実践発表やグループワークなどを行って、より多くの学校での活動につなげていく。	

17	指標	地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を配置している小学校数
----	----	---

指標の説明	教育委員会が委嘱した「地域学校協働活動推進員（コーディネーター）」を配置している小学校数
担当課	生涯学習課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
小学校全校に対して聞き取り調査を行い、把握した状況に基づき、モデル事業の初年度は、先駆的な取組を実践している4校について、コーディネーターを委嘱し、事業を推進することができた。		-	目標値	4	8	8	12	5																		
		単位 校	実績値	4																						
			達成度	100.0																						
今後の課題と対応		 <table border="1"><caption>達成度の推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4 (策定時)</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>R6</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>R7</td><td>8</td><td>-</td></tr><tr><td>R8</td><td>8</td><td>-</td></tr><tr><td>R9 (中間年度)</td><td>12</td><td>-</td></tr></tbody></table> <p>モデル事業実施期間（令和6年度から8年度まで）の成果の分析や支援の効果を検証するなどして、9年度からの本格実施に向けた検討を行い、制度構築を図っていく。</p>							年度	目標値	実績値	R4 (策定時)	-	-	R6	4	4	R7	8	-	R8	8	-	R9 (中間年度)	12	-
年度	目標値	実績値																								
R4 (策定時)	-	-																								
R6	4	4																								
R7	8	-																								
R8	8	-																								
R9 (中間年度)	12	-																								

### 基本目標 Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育力の向上

【施策の基本方向】 3 青少年の健全育成の推進	総合 評価
<b>【具体的な施策の展開】</b> (1) 青少年を健全に育む環境づくりの推進 (2) 情報モラル教育の推進	<b>B</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
18 市民活動団体と健全育成団体が連携できた地域数（累計）	<b>1</b>
19 未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人数	<b>5</b>

#### 【学識経験者等の意見】

市民活動団体と健全育成団体が連携して、何をすることが課題であり、目的と手法の精査を行う必要がある。

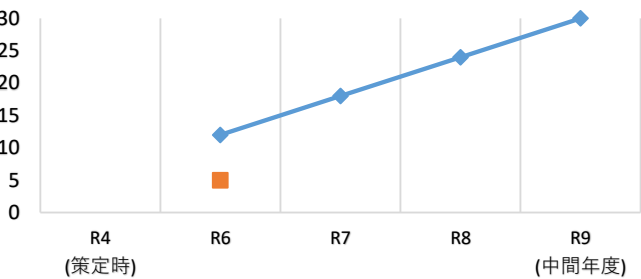
「安全・安心なネット利用」講座に関しては、PTAへの積極的なアプローチを行い、利用者数を増やしていきたい。

青少年の健全育成も「安全・安心なネット利用」も、コミュニティスクールを含む、地域学校協働活動の一環として位置付け直す必要がある。潜在的に関心のある地域住民は数多いものの、参加のきっかけが不足している。地域住民の関心をどのように組織化することが重要であり、まずは地域学校協働活動の中に位置付けることで、コーディネーターを中心に地域の様々な団体とのネットワーク化を図る必要がある。

地域の実情や特徴に応じた連携の工夫や幅広い年代層を視野に入れた健全育成に資する各団体間の連携が重要になると思われる。インターネット等の安全・安心な活用においては、一定の効果が期待されることから今後も継続した取組を進めていただきたい。

18	指標	市民活動団体と健全育成団体が連携できた地域数（累計）
----	----	----------------------------

指標の説明	防犯ボランティア団体等の市民活動団体が、地域の健全育成団体等が行う見守り活動や巡視活動と連携できた地域の延べ数
担当課	少年育成センター

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価															
地域に対して積極的に連携を呼びかけたものの、計画に対して7地域を下回る実績となった。	地域		目標値	12	18	24	30	1															
			実績値	5																			
			達成度	41.7																			
今後の課題と対応		<div><div><div>◆ 目標値</div><div>■ 実績値</div></div><table><thead><tr><th>年次</th><th>目標値</th><th>実績値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R6</td><td>12</td><td>5</td></tr><tr><td>R7</td><td>18</td><td></td></tr><tr><td>R8</td><td>24</td><td></td></tr><tr><td>R9</td><td>30</td><td></td></tr></tbody></table></div>							年次	目標値	実績値	R6	12	5	R7	18		R8	24		R9	30	
年次	目標値	実績値																					
R6	12	5																					
R7	18																						
R8	24																						
R9	30																						
健全育成活動への取組支援については、防犯アプリを活用した地域の危険個所の点検による防犯マップの作成など、更なる連携に向けて取り組む必要がある。																							

19	指標	未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人数
----	----	--

指標の説明	未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人数
担当課	少年育成センター

達成度の分析／取組内容	策定時	32	種別	R6	R7	R8	R9	評価
講座の受講を小学校、幼稚園及びこども園に対して積極的に周知した結果、小学校での就学時健康診断や入学周知会での開催依頼が複数あり、計画を大幅に上回る受講者の実績を得られた。	単位	人	目標値	400	600	800	1000	5
			実績値	538				
			達成度	134.5				

今後の課題と対応

子どもたちがネット・ゲーム依存に陥ることなく、また将来的にネットを利用した犯罪被害や非行を防止する対策の取組はこれからも継続して行っていく必要がある。

目標値 実績値

種別	R6	R7	R8	R9
目標値	400	600	800	1000
実績値	538			

(策定時) (中間年度)

## 基本目標 IV 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり

【施策の基本方向】 1 多様な学習機会の充実	総合 評価
<b>【具体的な施策の展開】</b> (1) 生涯学び活躍できる機会の提供 (2) 新たな手法を活用した学びの推進	<b>C</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
20 生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数	<b>4</b>
21 生涯学習センターのデジタル化した講座等の開催割合	<b>1</b>

### 【学識経験者等の意見】

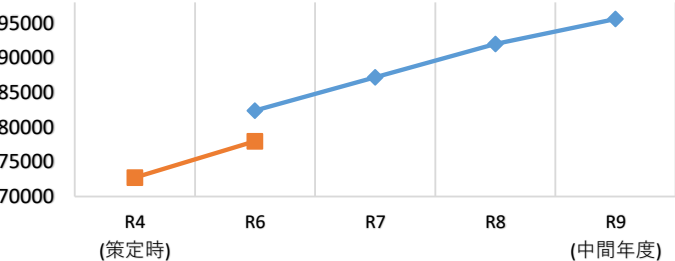
生涯学習のニーズは増えているように感じる。子どもから高齢者・障がい者や外国人まであらゆる世代・環境の方が、気軽に学べる機会をつくる必要がある。また、学びを通じた居場所づくりにもなることから、人が集い、対面で語らいながら学ぶ場と併わせて、オンライン講座等デジタル化も促進していただきたい。

リスキリングが求められる時代となり、潜在的なニーズは高まっていると考える。ただし難しいのは、学びにおいて、現在、YouTubeを始めとする便利で強力なライバルが数多く存在することである。確かにデジタル化の努力も必要ではあるが、生涯学習センターやコミュニティセンターはそうした現代的な流れや傾向と差別化して、むしろ対面で交流できることの楽しさや良さを前面に打ち出す方策が必要になるのではないかな。

時代の変化に応じた生涯学習機会の確保と充実が地域から求められている。今後は周知や広報の工夫を柔軟な視点から行うことが重要である。

20	指標	生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数
----	----	-----------------------------

指標の説明	生涯学習センター及びコミュニティセンターが主催する講座の延べ参加者数
担当課	生涯学習センター

達成度の分析／取組内容		策定時	72733	種別	R6	R7	R8	R9	評価																		
講座開催回数はやや増加したが、講座の参加者数についてはやや減少し、目標値を達成することはできなかった。	単位	人	目標値	82400	87200	92000	95600	4																			
			実績値	77976																							
			達成度	94.6																							
今後の課題と対応		<div><div>◆ 目標値</div><div>■ 実績値</div></div>  <table><thead><tr><th>種別</th><th>R4</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th></tr></thead><tbody><tr><td>目標値</td><td></td><td>82400</td><td>87200</td><td>92000</td><td>95600</td></tr><tr><td>実績値</td><td></td><td>77976</td><td></td><td></td><td>78000</td></tr></tbody></table> <p>講座の回数や内容を精査し、改善を加えながら、地域における生涯学習の推進を継続して実施していく。</p>								種別	R4	R6	R7	R8	R9	目標値		82400	87200	92000	95600	実績値		77976			78000
種別	R4	R6	R7	R8	R9																						
目標値		82400	87200	92000	95600																						
実績値		77976			78000																						

21	指標	生涯学習センターのデジタル化した講座等の開催割合
----	----	--------------------------

指標の説明	生涯学習センターで開催する講座に占めるデジタル機器を活用した講座等の割合
担当課	生涯学習センター

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
オンライン講座や、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド型講座のほか、講座のデジタル化や動画教材の活用などを実施することとしており、ハイブリッド型講座を1回実施したが、目標値を達成することはできなかった。		-	目標値	3.75	7.50	11.25	15	1
	単位	%	実績値	0.47				
		達成度	12.5					

今後の課題と対応	
引き続き、ハイブリッド型講座の開催増に取り組むとともに、電子黒板を活用した講座の開催に取り組む。	

● 目標値

■ 実績値

年度	目標値	実績値
R4 (策定時)		
R6	3.75	0.47
R7	7.50	
R8	11.25	
R9 (中間年度)	15	0.5

## 基本目標 IV 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり

【施策の基本方向】 2 生涯学習施設・機能の充実	総合 評価
【具体的な施策の展開】 (1) 学習施設・機能の充実	<b>B</b>

【施策の基本方向の指標】	評価
22 市民一人当たりの図書館資料の貸出冊数	<b>3</b>

### 【学識経験者等の意見】

親子で訪れ親子で語りあい、親子で学ぶ図書館づくりに取り組んでいただきたい。

市民への本の貸出とともに、各学校・園との連携をより一層、進めてほしい。千葉縣市川市などの先進的な地域では、情報のネットワーク、人のネットワーク、物流のネットワークが完備されることで、学校図書館を活用した授業づくりが精力的に進められている事例がある。地域の図書館と学校図書館が連携し、図書の相互貸借や共同企画の実施等を行うことで、大人から子どもまで利用者のニーズに応える魅力的な図書館を実現してほしい。

図書館資料の充実やアクセシビリティの向上は重要な課題であり、地域の図書館資料の有効活用を期待する市民への情報発信等を更に充実させることが望まれる。



22	指標	市民一人当たりの図書館資料の貸出冊数
----	----	--------------------

指標の説明	図書館において、市民一人が1年間に借りる図書館資料（電子図書等を含む）の冊数
担当課	中央図書館

達成度の分析／取組内容		策定時	5.9	種別	R6	R7	R8	R9	評価
図書館機能の充実を始め、読書活動推進につながる行事の実施や情報発信に努めたものの、貸出冊数は目標を達成することができなかった。	冊	単位		目標値	6.1	4.2	4.2	6.9	3
				実績値	5.2				
				達成度	85.2				

目標値 実績値

年度	目標値	実績値
R4 (策定時)	-	5.2
R6	6.1	4.8
R7	4.2	-
R8	4.2	-
R9 (中間年度)	6.9	-

今後の課題と対応	
蔵書の充実など、サービスの向上や各館での居心地の良い空間づくりに努め、市民の読書意欲・学習ニーズ等に応えていく。	



◎ 項目（指標）一覧

No	担当課	項目（指標）	実績値	目標値					達成度	評価
			R6	R6	R7	R8	R9			
Ⅰ－１ 確かな学力と個性を伸ばす教育の推進										B
1-1	学校教育課	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（小学5年生）	75.6	79.0	79.0	79.0	79.0	95.7	4	
1-2	学校教育課	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（中学2年生）	77.1	77.0	77.0	77.0	77.0	100.1	5	
2-1	ICT教育推進室	授業において、一人一台端末などのＩＣＴ機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（小学6年生）	45.9	58.0	72.0	86.0	100	79.1	3	
2-2	ICT教育推進室	授業において、一人一台端末などのＩＣＴ機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（中学3年生）	32.9	43.0	62.0	81.0	100	76.5	3	
Ⅰ－２ 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進										A
3-1	学校教育課 人権教育課	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（小学5年生）	93.7	94.5	94.5	94.5	94.5	99.2	4	
3-2	学校教育課 人権教育課	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（中学2年生）	94.1	94.0	94.0	94.0	94.0	100.1	5	
4	保健体育課	児童が体育の授業以外で運動する時間（1日当たり）（小学5年生）	57.1	62	63	64	65	92.1	4	
Ⅰ－３ ふるさとの未来を支える教育の推進										A
5	高松第一高等学校	投票することに前向きな生徒の割合（高校2年生）	83.6	81.0	81.0	81.0	81.0	103.2	5	
6-1	学校教育課	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（小学5年生）	68.5	67.0	67.0	67.0	67.0	102.2	5	
6-2	学校教育課	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（中学2年生）	40.2	43.0	43.0	43.0	43.0	93.5	4	
Ⅱ－１ 学校教育環境の整備・充実										A
7	学校施設整備室 保健体育課	学校教育施設の老朽化対策進捗率	15.8	13.7	25.8	36.3	50.0	115.3	5	
8	ICT教育推進室	電子黒板の整備率	77.5	75.0	80.0	100	100	103.3	5	
Ⅱ－２ 多様な教育ニーズに対応した教育機能の充実										A
9-1	総合教育センター	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（小学校）	100	100	100	100	100	100	5	
9-2	総合教育センター	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（中学校）	100	100	100	100	100	100	5	
10-1	総合教育センター	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（小学生）	73.0	80.0	80.0	80.0	80.0	91.3	4	
10-2	総合教育センター	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（中学生）	64.1	75.0	75.0	75.0	75.0	85.5	3	
Ⅱ－３ 教員の資質向上と教育指導体制の充実										A
11-1	総合教育センター	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（小学校）	100	92.0	92.0	92.0	92.0	108.7	5	
11-2	総合教育センター	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（中学校）	78.3	89.0	89.0	89.0	89.0	88.0	3	
12	学校教育課	教職員の年次休暇の平均年間取得日数	15.8	15.0	15.0	15.0	15.0	105.3	5	
Ⅱ－４ 安全で安心な教育環境の充実										A
13-1	保健体育課	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（小学校）	89.4	73.9	77.6	81.3	85.0	121.0	5	
13-2	保健体育課	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（中学校）	81.8	78.0	82.0	86.0	90.0	104.9	5	
Ⅲ－１ 家庭・地域の教育力の向上										B
14	生涯学習課	子ども会リーダー研修会に参加して、リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合	96.2	100	100	100	100	96.2	4	
15	学校教育課 生涯学習課	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人のとの協働による活動を行っている小学校の割合	31.9	46.8	51.1	55.3	59.6	68.2	2	
Ⅲ－２ 学校・家庭・地域の連携・協働の推進										B
16	学校教育課 生涯学習課	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人のとの協働による活動を行っている小学校の割合【再掲】	31.9	46.8	51.1	55.3	59.6	68.2	2	
17	生涯学習課	地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を配置している小学校数	4	4	8	8	12	100	5	
Ⅲ－３ 青少年の健全育成の推進										B
18	少年育成センター	市民活動団体と健全育成団体が連携してきた地域数（累計）	5	12	18	24	30	41.7	1	
19	少年育成センター	未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人数	538	400	600	800	1000	134.5	5	
Ⅳ－１ 多様な学習機会の充実										C
20	生涯学習センター	生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数	77976	82400	87200	92000	95600	94.6	4	
21	生涯学習センター	生涯学習センターのデジタル化した講座等の開催割合	0.47	3.75	7.50	11.25	15	12.5	1	
Ⅳ－２ 生涯学習施設・機能の充実										B
22	中央図書館	市民一人当たりの図書館資料の貸出冊数	5.2	6.1	4.2	4.2	6.9	85.2	3	